新型コロナウイルス感染症の拡大と図書館
―（続編）感染の再度の拡大に備える―

The outbreak of Coronavirus (COVID-19) disease and University Library
－（The sequel）For covering risks of repeat infection－

長塚　隆*

この続編をまとめている 10 月時点では米国や欧州諸国での再度の感染者数の増大が著しくなっており、本誌が皆様に届いてご覧いただく 12 月には状況が大きく変化しているかもしれませんが、ここまでの状況を整理して報告することにしたい。

本誌の前号（199 号 9 月発行）で、新型コロナウイルス(COVID-19)による感染症の世界的な拡大である今回のパンデミックが図書館の活動に及ぼしている影響と感染拡大下での図書館サービスを継続するための取り組みや努力について報告した[1)]。

前稿（199 号）では 7 月までの図書館の対応について報告したが、その後も新型コロナウイルスによる感染症の拡大は継続している。この続編をまとめている 10 月時点では米国や欧州諸国での再度の感染者数の増大が著しく、今後の感染症の長期化が確実となる中で、感染拡大下の状況下での図書館サービスの提供方法について継続した取り組みが求められていると言える。

今、この原稿をまとめている 11 月 3 日の時点で、世界の感染者数は 4,684 万人に達し、120 万人を超える多くの方が新型コロナウイルス感染症により亡くなられている[2)]。わが国でも、1 月 15 日に最初の感染者が確認されて以降、感染者数は増加し 4 月 7 日に緊急事態宣言が出され、その後全国に拡大された。緊急事態宣言は 5 月 25 日に解除されたが、再度、感染者は増大し、11 月 3 日現在で感染者数は 10 万 2 千人を超え、亡くなられた方が 1,780 名と二千名に近づいている[3)]。

前稿（199 号）では、新型コロナウイルスの感染拡大により、世界の公共図書館や大学図書館のサービスや活動が大きく制約された状況のなかでその打開のために図書館あるいは図書館員がどのように図書館サービスを継続するために取り組んできたかのかについて紹介した。実際、2 月以降、多くの国で図書館の休館や様々な図書館サービスの停止・制限を余儀なくされてきた。今後も感染症と共存しながらの社会状況が継続して行くと考えられるなかで、どのように図書館サービスを継続していくかは大きな課題となっている。

世界の図書館がどのように対応しているのかについて知ることで、今後の感染症の拡大という困難な時期に利用者と図書館員の生命を守ったうえで、図書館がどのように対応することが出来るのか今後の方向を探りたいと思う。本稿が、今後の図書館のあり方を考える一助になれば幸いである。

１．新型コロナウイルスの感染拡大と公共図書館サービスの変化

本稿をまとめている現在に至るまでに起きた新型コロナウイルスの感染拡大と公共図書館サービスの関係については、以下のように大きく３区分に分けて考えることができよう。

*鶴見大学名誉教授　〒230－8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2－1－3
Takashi NAGATSUKA, Professor Emeritus, Tsurumi University, Tsurumi 2－1－3,Tsurumi－ku,Yokohama, Japan 230－8501　連絡先：nagatsuka-t@tsurumi-u.ac.jp

まず、図１は本年に入って新型コロナウイルスの感染が拡大する以前の状態である。

次の図２は、感染の本格的な拡大によりもたらされたコロナ感染拡大第一期である。この時期は国や地域により異なるがおおむね2020年2－6 月頃となる。その次の図３は、コロナ感染拡大第二期でこの時期は７月頃から現在に至る期間である。この時期は国・地域で異なるものの、多くの地域では感染の増加が第一期に比べると低く抑えられているところが多い。

図１のコロナ感染以前の時期に多くの公共図書館は利用者の来館を前提にして、図書館サービスを提供してきた。利用者は書籍等の貸出予約はオンラインで行っても、来館して図書、雑誌、音楽 CD など閲覧・貸出サービスを享受していた。

また、近年は多くの公共図書館は地域のコミュニティの大切な交流の場を提供し、お話会、読書会、映画の上映会、講演会あるいはメイカースペースなど館内で開催される各種のイベントを通じて図書館利用者の多様な要望に応えてきた。

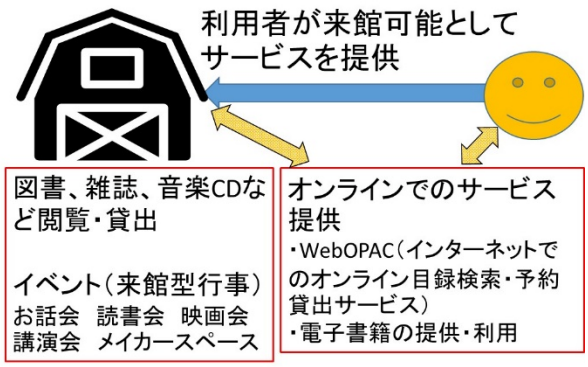

図１　コロナ感染以前（2019 年末まで）の公共図書館と利用者

ただし、このような利用者の来館を前提としたサービスは、ひとたび感染症が広がると、図２のように、国や地域によってはすべての公共図書館が休館に追い込まれることとなった。休館時には多くのサービスの提供を停止せざるを得なかった。

多くの図書館で、感染拡大により図書館の休館に追い込まれた初期にはインターネットでのオンライン目録検索システムは使用できても、予約貸出サービスは図書館が休館し貸出しができないため停止せざるを得なかったところが多かった。一方で来館しなくても自宅からインターネットを介して利用できるリモートサービスの利用は増大した。例えば、電子書籍の提供サービスは休館時も継続されたところが多く、電子書籍の利用が増加した。

図書館が休館になってしばらくすると、リモートサービスの名称が、利用者が来館しないで利用できるサービスの総称として使用されるようになった。

従来は、図書館内で開催されてきた来館型行事であるお話会、読書会、映画会、講演会、メイカースペースなどのイベントを Facebook、YouTube、LINE、Zoom などの様々なツールを使用して提供する試みが多くの公共図書館で開始された。

また、京都府立図書館など一部の図書館では休館中に図書の郵送サービスに取り組んだところもあった[4)]。

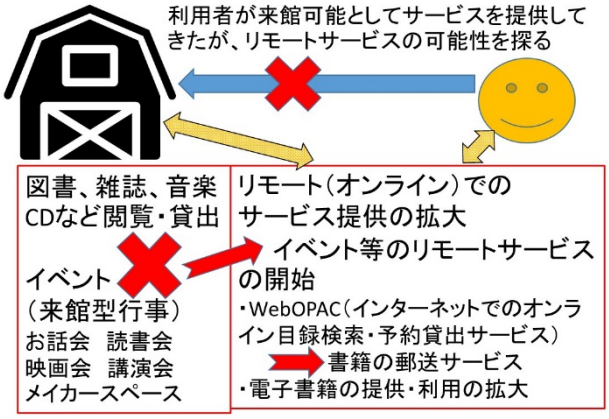

図２　コロナ感染拡大第一期（2020 年 2－6 月頃国・地域で異なる）の公共図書館と利用者

図３のコロナ感染拡大第二期は、7 月以降現在までに相当し、コロナ感染拡大第一期の後に続いた時期である。この時期は国・地域によって異なるが、多くの国で感染者数の増加スピードが比較的低くなった時期に相当する。この時期には多くの国で段階的に公共図書館の開館・制限開館が実施された。開館・制限開館に伴い、コロナ感染拡大第一期の時期に図書館リモートサービスとして提供されていたイベント等のリ

モートサービスの提供回数が減少し、在館サービスへの回帰が起こっている地域や国も見られた。イベント等のリモートサービスの在館での対面開催への回帰の程度は国や地域によって異なっている。今後の感染の拡大状況にもよるが、リモートでのサービスの提供と在館でのサービスの提供をどのようなバランスで併存していけばよいのかハイブリッドサービスへの模索が続いている。

この時期にはインターネットでオンライン目録検索を使用して、予約貸出サービスで予約後に、図書館の一部に設置された受け渡し場所で予約本を受け取り、同時に借出した図書を返却できるカーブサイドサービスが広く採用された。わが国でも同様に予約した図書を図書館で受け取れるサービスが広く採用されている。館内の図書を閲覧可能な場合にも、館内での滞在時間は制限されている場合が多い。電子書籍の提供・利用は引き続き拡大傾向にあるが、図書館として提供するための予算の確保に困難が生じている国や地域も多い。

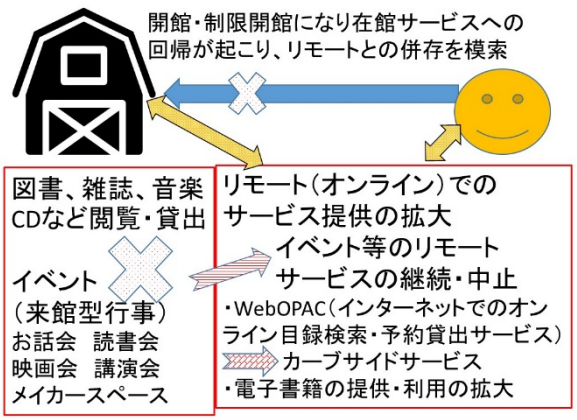

図３　コロナ感染拡大第二期（2020 年 7－10 月　国・地域で異なる）の公共図書館と利用者

２．日本の公共図書館の状況を知るために

多くの図書館がこの事態にどのように対応しているのかを知ることができる情報を集約して整理しているサイトを前稿（199 号、2020 年 6 月時点）で紹介したが、ここでは、現時点（2020 年 10 月）での状況を整理しておきたい。

①「都道府県立図書館・政令指定都市立図書館および国立国会図書館の状況」6 月 8 日付で公開された新型コロナウイルス感染症による都道府県立図書館・政令指定都市立図書館・国立国会図書館への影響（第 11 報）[5] 以降は更新されていない。

②カーリルによる全国 1409 館の公共図書館等のウエブページからの休館などの情報収集（4 月 8 日）[6]。

③「COVID-19 の影響による図書館の動向調査」（saveMLAK）が継続して実施されている[7]。10/07（水）時点での公共図書館の休館状況等の調査結果【公共図書館版】（第 11 回）が公開されている。

④休館の時期に各図書館がサービスを何とか止めないで、ホームページ、Facebook、YouTube などの媒体を活用して、色々な形態でサービスを持続しようとした多くの試み（取り組みの事例集）（saveMLAK））[7]。

⑤文部科学省の臨時休業期間における学習支援コンテンツポータルサイト（子供の学び応援サイト）。現在は、学習支援コンテンツポータルサイト（子供の学び応援サイト）として内容が更新され継続している[8]。

⑥日本図書館協会「新型コロナウイルス感染症への図書館の対応事例」が集められているが、内容の更新は 2020 年 7 月 8 日が最新となっている[9]。

⑦国立国会図書館リサーチ・ナビ「新型コロナウイルスに関する図書館等の取組」最新の更新は 2020 年 10 月 14 日[10]。

３．海外の公共図書館の状況を知るために

海外の多くの図書館がこの事態にどのように対応しているのかを知ることができる情報を集約し整理しているサイトとして、前稿（199 号、2020 年 6 月時点）で国際図書館連盟「新型コロナウイルス感染症と世界の図書館界」[11] のコーナーについて紹介した。ここでは、その後の状況を整理して紹介することにしたい。

国際図書館連盟「新型コロナウイルス感染症と世界の図書館界」のコーナーは、前号で国際図書館連盟（IFLA）がコロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受けて、3 月 23 日に「新型コロナウイルス感染症と世界の図書館界（COVID-19 and the Global Library Field）」

コーナーとして、IFLA のホームページ上に設置し、世界の図書館が感染症にどのように対応しているかについて情報を収集し日々更新されていることを紹介した[11)]。

現在も「新型コロナウイルス感染症と世界の図書館界」のコーナーは更新されている。有志による日本語訳（2020 年 5 月 1 日時点）も公開されている[12)]。

4 月 24 日時点での「新型コロナウイルス感染症と世界の図書館界」のコーナーの情報に比べて、10 月 13 日に更新されたコーナーでは、「自宅や職場での安全確保」の項目が「資料の取り扱い時の注意」と「社会的距離と書籍の配送サービス」の小項目に分けられてその後の各地での経験が追加されている。また、デジタル資料をより多く利用者に提供できるようにするための取り組みに関する項目「利用可能な資料」が新規に追加されている。

さらに大きく情報が追加されたのは「図書館の再開にあたって」の項目で 5 月以降の各地での図書館の再開にあたっての経験が新規に多く追加されている。追加された小項目は「図書館への入館者数の制限」、「館内での利用者の密接の防止」、「イベントや諸活動の開催にあたっての注意」、「感染防止の促進」、「職員の安全確保」、「利用者への広報」、「世界の各地での図書館の再開計画」などとなっている。

４．新型コロナウイルスの感染拡大と大学図書館サービスの変化

本稿をまとめている現在（10 月）に至るまでの新型コロナウイルスの感染拡大と大学図書館サービスの関係については、公共図書館の場合とほぼ同様に、以下のように大きく３区分に分けて考えることができる。

まず、図４は本年に入って新型コロナウイルスの感染が拡大する以前の状態である。次の図５は感染の本格的な拡大によりもたらされたコロナ感染拡大第一期である。この時期は国や地域により異なるがおおむね 2020 年 2－6 月頃となる。その次は、図６に示すコロナ感染拡大第二期でこの時期は 7 月頃から現在に至る期間である。この時期は国・地域で異なるものの、多くの地域では感染の増加が第一期に比べると低く抑えられているところが多い。

図４のコロナ感染以前の時期では多くの大学図書館は学術雑誌や専門書のデジタル化の進展を背景として電子ジャーナル・電子書籍などのオンラインでのサービス提供の拡大に努力をしてきていた。これらのデジタル資料の提供は初期にはキャンパス内からのアクセスに限定されることも多かったが、近年では多くの大学で学外からのアクセスも可能になっていた。インターネットでのオンライン目録検索や予約貸出サービスも利用できるところが多くなっていた。しかし、多くの大学図書館では利用者、特に学生の来館を前提にして、図書館内に情報コモンズ（パソコン、印刷機）や自学学習のためのラーニングコモンズ、まだ数は少ないが 3D プリンタや電子工作などができるメイカースペースなどを設置してきた。このように、図書館内で利用が可能な多様な図書館サービスを提供することで、現在の学生の多様な要望に応えようとしてきた。

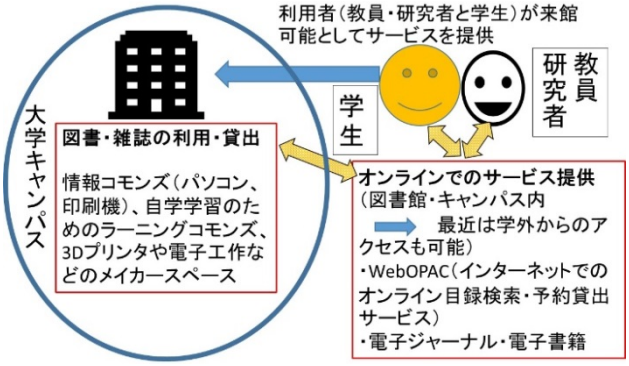

図４　コロナ感染以前（2019 年末まで）の大学図書館と利用者

ただし、このような利用者の来館を前提としたサービスは、ひとたび感染症が広がると、図５のように、国や地域によってはすべての大学がキャンパスを閉鎖し、オンライン授業に移行したことで、大学図書館も休館になり、多くのサービスの提供を停止せざるを得なかった。

多くの大学図書館では、感染拡大により図書館の休館に追い込まれた当初は、インターネットでのオンライン目録検索システムは使用できても、予約貸出サービスは図書館が休館し貸出しができないため停止したところが多かった。しかし、一定期間後には多くの大学図書館で学

生や教員が予約した図書を郵送するサービスを提供するようになった。多くの場合に郵送料は図書館が負担して行われた。

多くの大学図書館では自然科学系の専門雑誌はすでにデジタル化され電子ジャーナルとしてオンラインで提供されていたため教員や学生は図書館の休館中もリモートアクセスサービスを通じて自宅から利用が可能であった。しかし、地域によりあるいは大学によってはリモートアクセスサービスが提供されていない場合には教員や学生は情報の入手が大変困難になった。特に、人文系では図書館にアクセスしないと見られない資料も多く今後の課題となっている。

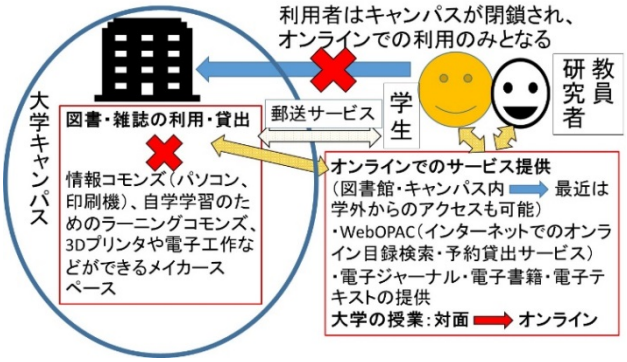

図５　コロナ感染拡大第一期（2020 年 2－6 月頃国・地域で異なる）の大学図書館と利用者

日本では授業の教科書がデジタル化されていないものが多く、今回多くの大学がオンライン授業へ短期間で移行せざるを得ない状況になり、オンライン授業を推進する上での困難となった。

大学図書館が休館になって学生が来館できなくなると、リモートサービスは利用者が来館しないで使用できるサービスの総称として使用されるようになった。

図書館内に設置された情報コモンズ（パソコン、印刷機）、自学学習のためのラーニングコモンズ、3D プリンタや電子工作などができるメイカースペースなどは利用ができない状態が継続しており、今後の感染が長期化する中でどのように工夫して利用出来るようにしていくかが課題となっている。

コロナ感染拡大第二期は、図６の７月以降現在までに相当し、コロナ感染拡大第一期の後に続いた期間である。国・地域によって異なるが、多くの国で感染者数の増加スピードが比較的低くなった時期である。

この時期には多くの国で段階的に大学図書館の開館・制限開館が実施された。しかし、多くの大学では依然としてオンライン授業が中心のところが多く、来館利用は学内者に制限している大学が多い。

制限開館の大学図書館では、オンラインで予約した書籍の受け取りだけで、館内での閲覧などを制限している場合も多い。

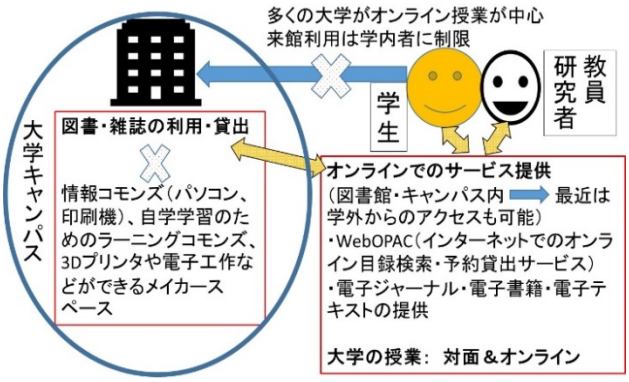

図６　コロナ感染拡大第二期（2020 年 7－10 月国・地域で異なる）の大学図書館と利用者

５．日本の大学図書館の状況を知るために

多くの図書館がこの事態にどのように対応しているのかを知ることができるサイトを前稿（199 号）で紹介した。ここでは、現在の状況を整理して紹介することにしたい。

①「令和２年度における大学等の授業の開始等について（通知）」3 月 24 日に文部科学省高等局より発出された[13]。

②「4 月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」3 月 26 日から国立情報学研究所が主催してオンラインで開催され、現在（10 月 21 日）までに合計 18 回のシンポジウムがオンライン開催されている[14]。大学や小中高校などの遠隔授業に関する報告が多いが、いくつか大学図書館の対応・対策状況についての報告がされている。ただし、大学図書館からの報告は 5 月 29 日の報告が最後でそれ以降は見受けられない。9 月以降は大学の授業が対面授業とオンライン授業の混合型で行われている大学が多いことを反映して、対面授業とオンライン授業をどのよ

うに進めるかという報告や前学期のオンライン授業の学生へのアンケート調査から前期授業への振り返りの報告などが多くなっている。また、最近開催されるシンポジウムでは海外の大学で活躍されている日本人教員からの報告も多くなっている。

③文部科学省が感染拡大の防止を踏まえたうえで、学生の学修機会の確保，学生への適切な情報提供の支援等に取組むためのガイドラインを公開（6 月 5 日）している[15]。

④saveMLAK「covid-19-survey 国立大学図書館」では、国立 86 大学の主として中央館の開館・休館数について 2/28(金)以降毎週調査して集約している。現時点（10 月 23 日）は、10/16(金)調査分まで掲載されている。現在は、86 館中休館しているのは 1 館とほとんどの大学図書館は短縮時間開館を含んでであるが開館している。現時点まででは、5 月 1 日（金）調査時で休館数が 74 館と最も多かった[16]。

⑤私立大学図書館協会東地区部会 2020 年度管理職研修（2020/10/16 オンライン開催）「大学図書館は動き続けているか：COVID-19 拡大に直面して Part 2」と題して東北大学附属図書館小陳左和子氏がコロナ感染下での大学図書館の取り組みについて紹介している[17]。

⑥国立大学図書館の開館状況の推移をグラフ化して分かりやすく表示している[18]。

⑦NACSIS-CAT/ILL 参加館 ILL ステータス:国公私立大学図書館、専門図書館等が参加する NACSIS-CAT/ILL の参加館情報と ILL の受付状況を集計している[19]。サービス中止館の割合は、1,722 館のうち 5 月 4 日では 70% で、7 月 6 日では 40%であったと報告されている。

⑧「コロナ新時代に向けた今後の学術研究及び情報科学技術の振興方策について」の提言が文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会・情報委員会より、9 月 30 日に発表された[20]。

図書館の休館などのために研究活動への支障が生じたことを教訓として、新型コロナウイルス感染症の再拡大の場合に可能な限り研究活動を停止させないために大学間での一層の情報の共有が必要と指摘している。

「コロナ新時代にふさわしい新しい研究様式への転換」の項目では、学術情報の集積拠点である大学図書館への物理的なアクセスが制限された結果、教育研究活動に大きな影響が生じたことを踏まえ、大学図書館においては、今後、より一層、デジタル化を進めることが必要であると指摘している。

また、大学図書館をはじめ多くの図書館等が休館となった結果、インターネットを通じた図書館資料へのアクセス等についてのニーズが顕在化したことも指摘している。図書館等への物理的なアクセスができない場合にも絶版等資料の円滑な閲覧等が可能となるように、著作権法の図書館等に係る権利制限規定の検討が必要ではないかと指摘している。

６．海外の大学図書館の状況を知るために

すでに、公共図書館の項で紹介したが、国際図書館連盟の「新型コロナウイルス感染症と世界の図書館界」[11] のコーナーで、各国の大学図書館でのリモートサービスの提供についての情報が集約されている。特に、発展途上国の大学図書館の取り組みについて多く紹介されている。

米国の大学図書館の対応については、米国図書館協会の部門である大学・研究図書館協会(ACRL)が研究（大学）図書館のためのパンデミック関連情報を集約している[21]。また、ニューヨークにある非営利団体 Ithaka S+R はコロナ感染拡大による大学の研究や授業への影響について集約し、研究レポートを発表している[22]。2020 年春学期における緊急的なリモートでのオンライン授業に関して学生と教職員がどのように感じどのような経験をしたのかについて調査し、コロナ感染症の米国での大流行は、全国の大学で学生と教職員に前例のない混乱を引き起こしたとしたうえで、授業や学習におけるオンラインモデルとハイブリッドモデルが、今後継続が予測されているパンデミックのなかで教育機関にとって大切な対応の方策になると指摘している[23]。

また、米国のほとんどの大学では前学期はオンラインでの授業に移行したが、最近になって、少しずつオンライン授業での学生の受講状況や成績、卒業率などについての調査が発表されており、教職員と学生の努力により前年と比較してもそん色のない結果が得られているとしてい

る[24]。

欧州では、欧州研究図書館協会（LIBER）が欧州の研究（大学）図書館のコロナ感染症に関する情報を収集している[25]。9月には、コロナ感染症によるパンデミック時の欧州の研究(大学)図書館の状況を分析したレポートが発表されている。このレポートでは自宅からの研究資料へのアクセスの増加、オンライン授業での資料の使用の増加、そしてより多くのデジタル資料の提供への要望などにより大学図書館では多くの予算が必要となり財政上の困難に当面していると指摘している[26]。

７．感染の再度の拡大に備えるために

本年に入ってからの新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大パンデミックは、当初に考えられていた予測を超えて、10月以降の米国や欧州での感染の再拡大を受けて長期的な対応を私たちに迫っている。

年初から現在に至るまでに起きた新型コロナウイルスの感染拡大と図書館サービスの関係については、本稿で大きく３区分に分けて考えることができるのではないかとして提起した。これらの時期区分はその地域や国により異動はあるが、大きな傾向として共通していると考えられる。

我々は、最近の米国や欧州での感染の再拡大を見るにつけ、新型コロナウイルスの感染が拡大する以前の状態にすぐに戻ることは難しいと考えざるを得ないようである。

そうであれば、本稿で見てきた現在に至るまでの各国での様々な経験や新たな企画への挑戦などから学び、今後におけるより良い図書館サービスの可能性を目指すことが大切に思われる。本稿では、各国での公共図書館や大学図書館の個別の取り組みについては、紹介できなかったが、著者による次の発表なども参考にしていただければ幸いである[27, 28, 29]。

参考資料

１．長塚 隆「新型コロナウイルス感染症の拡大と図書館」日本農学図書館協議会誌，199，8－14（2020）

２．「WHO Coronavirus Disease (COVID-19) Dashboard」https://covid19.who.int/（2020年11月4日参照）

３．「国内の発生状況」厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2_1(2020年11月4日参照)

４．「申込の受付を終了しました【期間限定】府立図書館図書無料お届けサービスについて」https://www.library.pref.kyoto.jp/?p=22697 （2020年10月31日参照）

５．「新型コロナウイルス感染症による都道府県立図書館・政令指定都市立図書館・国立国会図書館への影響（第 11 報)」(投稿 2020 年6月8日）https://current.ndl.go.jp/node/41156（2020年10月21日参照）

６．「COVID-19 ： 多くの図書館が休館しています」https://blog.calil.jp/2020/04/stay-at-home.html （2020年10月21日参照）

７．「COVID-19対応のベストプラクティス共有」https://savemlak.jp/wiki/COVID-19 (2020年10月21日参照)

８．「学習支援コンテンツポータルサイト（子供の学び応援サイト）」https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm(2020年10月21日参照)

９．「新型コロナウィルス感染症への図書館の対応事例」日本図書館協会 https://www.jla.or.jp/tabid/853/Default.aspx （2020年10月21日参照）

10.「新型コロナウイルスに関する図書館等の取組」国立国会図書館 https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-1168.php （2020年10月21日参照）

11. 「COVID-19 and the Global Library Field」https://www.ifla.org/covid-19-and-libraries （2020年10月31日参照）

12. 「COVID-19 and the Global Library Field」日本語訳 https://savemlak.jp/wiki/COVID-19 （2020年10月31日参照）

13.「令和２年度における大学等の授業の開始等について（通知）」文部科学省

https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf （2020年10月21日参照）
14.「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」国立情報学研究所
https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/（2020年10月21日参照）
15.「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて」文部科学省
https://www.mext.go.jp/content/20200605-mxt_kouhou01-000004520_5.pdf （2020年10月21日参照）
16.「COVID-19 国立大学図書館」saveMLAK
https://savemlak.jp/wiki/ファイル :COVID-19 国立大学図書館.xlsx （2020年10月21日参照）
17.小陳左和子「大学図書館は動き続けているか：COVID-19 拡大に直面して Part 2」⑤私立大学図書館協会東地区部会 2020 年度管理職研修（2020/10/16 オンライン開催）
https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase_contents/detail/243671/b2cbf663cf114ec3a60b739f62fd716f?frame_id=676246(2020年10月21日参照)
18.やわらか図書館学
https://yawatosho.hateblo.jp/entry/2020/06/07/014725 （2020年10月21日参照）
19.「NACSIS-CAT/ILL 参加館 ILL ステータス」
https://savemlak.jp/wiki/covid-19-survey（2020年10月21日参照）
20.「コロナ新時代に向けた今後の学術研究及び情報科学技術の振興方策について」（提言）（2020年9月30日）文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会・情報委員会
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/mext_00538.html(2020年10月31日参照)
21.「研究（大学）図書館のためのパンデミック関連情報を集約」大学・研究図書館協会(ACRL)
https://acrl.libguides.com/pandemic（2020年10月31日参照）
22.「COVID-19 Resources for Higher Education and Academic Libraries」
https://sr.ithaka.org/our-work/covid-19/（2020年10月31日参照）
23.Christy McDaniel, Catherine Suffern, Jenna Joo, Rayane Alamuddin「Student and Faculty Experiences with Emergency Remote Learning in Spring 2020」RESEARCH REPORT, October 22, 2020
https://doi.org/10.18665/sr.314276(2020年10月31日参照)
24.Daniel Rossman, Rayane Alamuddin「Estimating the Impact of COVID-19 on Students' Academic Outcomes」October 22, 2020
https://sr.ithaka.org/blog/estimating-the-impact-of-covid-19-on-students-academic-outcomes/ （2020年10月31日参照）
25.欧州研究図書館協会（LIBER）
https://libereurope.eu/（2020年10月31日参照）
26.「Comments on the Current State of European Research Libraries during the COVID-19 Pandemic」欧州研究図書館協会（LIBER）
https://libereurope.eu/blog/2020/09/07/progress-report-on-the-current-state-of-european-research-libraries-during-the-covid-19-pandemic/ （2020年10月31日参照）
27.長塚 隆「コロナ渦で急進展する国内外の図書館リモートサービスの新たな試みと今後の可能性-公共図書館の事例を中心に一」図書館総合展 2020、2020-11-06
https://2020.libraryfair.jp/forum/2020/f149(2020年10月31日参照)
28.長塚 隆「コロナ渦で急進展する国内外の図書館リモートサービスの新たな試みと今後の可能性-大学図書館の事例を中心に一」図書館総合展 2020、2020-11-12
https://2020.libraryfair.jp/forum/2020/f150(2020年10月31日参照)
29.長塚 隆「コロナウイルス感染症と図書館メイカースペースへのリモートサービス導入の試みの今後」情報メディア学会第22回研究会
http://www.jsims.jp/kenkyu-kai/yokoku/22/22-1.pdf(2020年10月31日参照)